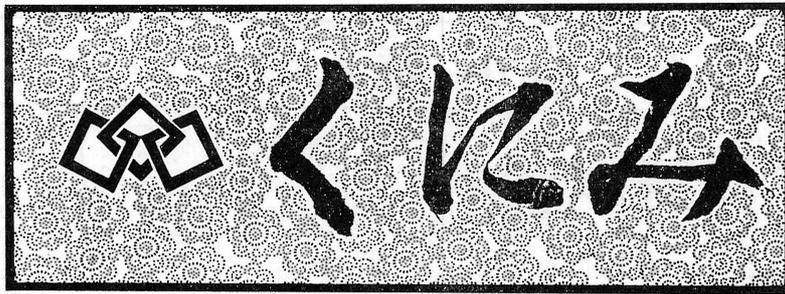


人口と世帯数	
男	5,814人
女	6,180人
計	11,994人
世帯数	2,638世帯
47.3.1 現在	



健康が心をつくる人をつくる

おくの細道

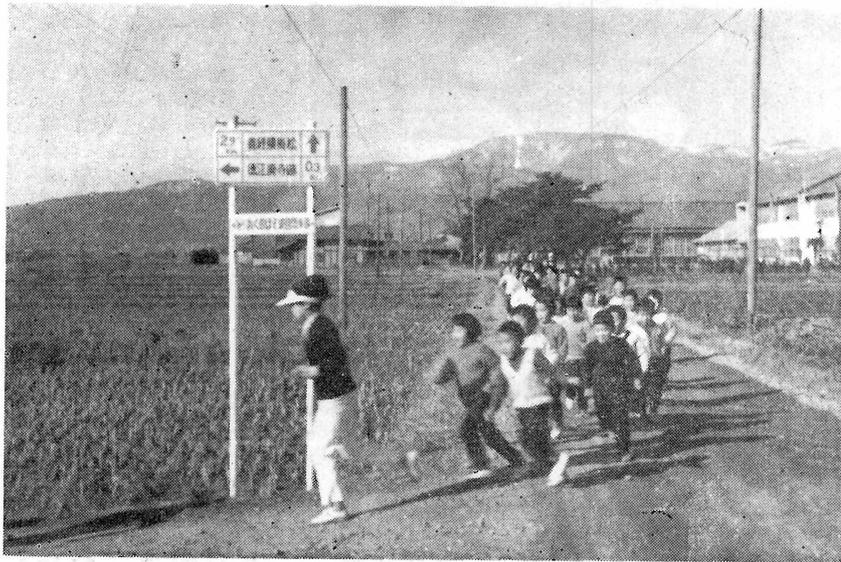
厚樫道を走る (森江野小の利用法)

昨年十月、おくのほそ道自然歩道厚樫道の完成を機会に、走力の増強と郷土への愛着心を深める目的で徳江観音を中心とした持久走路の構想を練っていたが幾回かの試走の結果「おくのほそ道持久走路」を決定した。

全校的には一月下旬から毎水曜日の第二校時と第三校時の業間に走ることにしているが、その外に学年ごとと業間や体育の授業中に利用している。

現在のところ低学年二百米、中学年四百米、高学年千米と区間をきめて走っているが、練習の結果をみて今後さらに走路区間を考へたいと思っている。二校時終了の合図とともにパツとび出し軽いウォーミングアップのあと走り出し、息をはずませて帰ってくる。高学年で約七分間、一年生では約五分間それでも今のところ一人の落伍者もなく運動量は適当のようである。みんみで走るといふことの良さであろう。

(森江野小菅井記)



県北中 家庭教育学級に学んで

二月二十八日赤軍派浅間山荘とりでのテレビ放映があり、一日中実態を歯痒く見入ったことでありましよう。そして、異口同音恐怖の中に人間性のあり方について歎かぬ人はなかつたろうと思えます。目的はどうあるうとも、現今、社会に何が欠けているのだからかコーヒーを飲みながらテレビを見、物識りになり、物欲もある程度満たされてる今日、高速回転する日常生活の中に、物事をじっくり考える時間がやや少ないように思われます。

最近ハッピーが起りストーリーのヒーローが現われる、忽ち英雄呼ばわりの格好のよさが受ける時代であるかも知れません。天変地異ならざる人偏人為であるように思います。

こんな時、子どもをよく育てるため、家庭学級で学びました。その内容は、

- 1、家族関係のあり方と親子の対話
- 2、外国を視察して、日本人の生活に思う
- 3、思春期の子どもを考え方、物の見方
- 4、中高生の就職進学指導
- 5、マスキミの悪影響から子どもを守るには
- 6、学力向上と入試に対する親子の態度
- 7、子どもを家庭作業に参加させるには
- 8、交友問題と非行防止
- 9、家風と生活行事

で運営担当の主事のご配慮と私たちの希望により、各界から指導立場にある方や高校の補導を体験された先生を招き、具体例に基づいた講話・映画・録音などによる実態・考え方等でありました。

人間が開拓する文化の化の字を如何に理解し、学んだ知性やら生み出す創意を社会的にいかん貢献し、あるいは人間関係を結び人生楽園をどう理想に近く形成するかが課題であろう。

皆さん、県下にも稀な中高生の父母を対象とした、県北中萩原先生の発想による公民館のこの試みに、思春期の子をもつ良い子の良い父母となるため、多忙な時間を割いて大いに参加してほしいと思います。公民館は社会教育の青少年育成のために、内容を更に充実し推進していただきたい。

私達は認識を新たにす所多く、関係諸先生と公民館に厚く御礼申上げます。

(代表 古川栄光)

老人と青年・婦人のつどい

近頃、社会経済の急激な変動にともない、特に七〇年代の老人問題はますます深刻化し、新しい問題を生み出している。今やひとり老人のみならず、若い人も婦人達も、みんなが、自らの問題として真剣に考えなければならなくなった。そこで、町の老人クラブ、明治学級、婦人会、青年会では、去る二月二十五日、福祉センターで老人と青年、婦人のつどいを開き、老人をとりまく諸問題について大いに語り合った。

定刻前十時、明治学級委員長熊田一怡さんの開会の辞につづいて関口町長、福島社会福祉事務所長の各氏からはげましのことば、福祉事務所老人担当谷口幸子さんの「今日の老人生活と福祉」についての講演があったあと四つのグループにわかれて話し合った。分科会の成否は一にかかって司会者のリードにあるといわれるが今回の司会はいずれも初めての人であつた。

お風には婦人会からおいしいなめこ汁、それに踊りクラブのみごとなアトラクシヨン、いつもながらあたたかい婦人方のサービスに感謝する。

午後五時、先ず分科会の報告、鈴木主事の司会で、代表者からそれぞれ別項のような発表があり、それに対する若干の質疑応答、更に福祉事務所の石幡次長さんからまとめと指導をかねての講演があつて、午後三時老人クラブ副会長藤田勝衛さんのあいさつで閉会となった。この日集った人数老人八五・婦人六〇・青年七・来賓その他八



老人と青年・婦人のつどい

（あらずじ）
○老人側から
(1)もつと家庭での話し合いを多くしたい。
(2)われわれ老人は、昔のことばかり語らないで、もっと新しいことも話すようにすれば若い人にも気に入られると思う。

○婦人側から
(1)老人だからといってひがましないで、どんどん発言してもらいたい。
(2)夕食後はあまり早く自分の部屋に引込まないで、一家庭らんりに仲間入りしてもらいたい

○司会
話し合いは誰から切出すか……
○若い者も

○老人側から
お姑様から出して欲しい誰からと限らない、その時に応じて話題をもっている人が出せばよい。
○青年から
父親は若い者にアトバイスしてもらいたい。母親は子どもの世話をしてもらわねばならぬので、い

つまでも健康でいてもらいたい。
○助言者から
(1)友達が悪口をいわれるのはいやなもの、また同じことを何回もいわれたくないもの
(2)お互いに幸せを感じることを大切、それには感謝の念をもつ、悪いことは忘れ、よい面だけを見てやるよう努める。

○婦人側から
集って勉強する機会が多くなったので、お互いに出席して、誰とでも話し合える婦人、としよりになりたい。
○老人側から
（あらずじ）
○社会での老人の役割
（老人A）これまで私たちは社会のためにいろいろ責任を果してきた。これからはむしろ社会的役割は婦人や青年が果すべきである。
（老人B）老人は仕事はしたくとも、若い者にたのまれないのでとても淋しい。

○家庭での老人の役割
（老人C）私たちは今まで社会のため、家庭のために一生けんめい働いて尽して来たが、さて息子に嫁をとった場合、その嫁が悪ければ、老人はいくら財産があつても精神的には絶対幸福でない。
（老人D）私たちは明治学級で勉強している。若い人も嫁も勉強してもらいたい。そうしたらよい嫁になるだろう。
（老人E）私は孫が小さい時から自分の手にかけてきた。保育所二年幼稚園一年雨の日も風の日も送り迎えして育てた。その

孫が中学生と大きくなったら、老人は汚いとか、うるさいといつてあまり大切にされなくなった。それはとりのこされたようではほんとうにさびしいことだ。
（老人F）それは老人の考えが間違っている。子どもは成長していくにつれおのずと老人から離れていくものだ、いつまでも孫は老人のものという考えは捨てるべきだ。
（みんなしゆんとする）
（婦人A）婦人会に出席すれば婦人会ではめし食っていけんぞ、お花やおどりにと出かければその通りの言葉で皮肉をいう。断絶という言葉は老人がつくっているのではないか。
（婦人B）家庭の中はガラス張りであつてほしい。

第一分科会

会場 老人子ども室
司会 阿部 重雄
記録 奥山福太郎
赤坂キミ子
（印全体会発表者、以下同じ）

第二分科会

会場 第一会議室
司会 佐藤 新七
鈴木 幸子
記録 佐久間直次
○実戸 光子

お悔み申し上げます

（二月中に亡くなられた方 敬称略す）

死亡日	氏名	年齢	住所
2月2日	佐藤 平助	93	泉田 道下9の4
7日	佐野 武吉	64	徳江 佐野台13
7日	斎藤 うら	89	石母田館ノ内17
9日	佐藤 善造	61	藤田 北59
10日	遠藤ハルヨ	71	貝田 番城内12の2
13日	大和田幾三	86	藤田 北71
16日	佐野 ミネ	76	徳江 雷神前35
21日	高橋 春雄	35	藤田 北34
29日	菊地 タツ	58	塚野目正法寺5

特に金銭問題は明らかにして欲しい。家計簿をつけて家内中にみせる。家にはどれだけお金があつて、どうしているなど判然としておけば、若い人たちも無理はいわない。(婦人C) 世話を息子に渡せば老人はもう口を出さないで、若い者がどうやるかじつと見ていればよい。何か聞かれたら親切に教えてやる。

○老人の生きがい
(老人女) 留守番している老人には立派な生きがいがある。若い者が働いているうちに牛にかいばをやったり隣組の用たしをしたり、ごはんの用意をしたり、風呂をたいたりして働いている。若い者は「ばあちゃんご苦労さま」といってお茶を入れてくれる、それが何よりの生きがいである。

(老人男) 私は明治学級で二年勉強したおかげで孫と喜んで遊ぶこともでき

ウワースごい

重文指定 „決定”

本紙十二月号でお知らせした大字小坂字木八丁佐藤勝一さんの住宅が、重要文化財に指定されるかも知れないという問題が、このほどほん決まりになり、テレビや新聞で発表になった。佐藤さんの家は今から凡そ三百年前に建てられ、その後一度も移転や増改築など手を加えたことがなく、当時の姿をそのまま保存さ

るし、若い者も一生けんめい働き私は家計簿をつける。一家だんらん喜びもある。頼まれなくとも自分でできる仕事はやる。

(青年) 私は親父を亡くして間もないが、亡くなられて初めて父親のありがたさを感じた。しかしこれは自分の運命とあきらめて、今は自分の立場に合った家庭生活をしていきたいと思っている。

(老人G) 世話(財布)を息子に渡すと全然老人にかまってくれない。例えば老今年金を若い者が受取って老人に渡さない。

(2) 医者にかかりたくともかからせない。

(司会) そんな息子、いまどきありますか。

(一同顔見合せて) ありません。(第三、四分科会の報告は次号で)

れて居り、建築学や民俗学上貴重なものとして、三日の県教育委員会で重文に決定されたのである。佐藤さん方では早速これを町に寄付するため、採納願いを提出した。町ではこんどの議会にかけてこれを採納し、これが移築の段取りをする事になった。移築は県文化財専門委員草野和夫氏(東北工業大学教授)郡山市)の指導により原形のままに行なうもので、竣工のあかつきは学界はもちろん、同好同学者の大きな関心事となるものと期待される。尚わが国見町ではこれが初めて、国指定では石母田供



養石塔があり、町指定では厚樫山の画像碑群と二重堀の二つがある。

社会を明るくする運動の標語 県北中生徒作品

一年	佐久間英雄
一年	野村千子
一年	田村美和子
一年	市川玲子
一年	秦真津子
一年	谷津宣行
一年	大勝孝好
二年	熊坂幸子
二年	黒田ひろ子
二年	佐藤信誠
二年	高野信晃
二年	安彦道子
二年	斎藤幸雄
二年	玉手定志
二年	菊地啓子
二年	佐々木みどり
二年	赤坂和子
二年	赤坂和子

おめでとうございます

(二月中出生届をされた方 敬称略す)

出生日	氏名	親名と続柄	住所
1, 21	大波 智子	秀雄の3女	徳江西18
1, 26	成田 敦	滋の長男	山崎太子堂24
1, 28	谷津 清司	正晴の2男	森山宮前5
1, 28	近野 広治	昭郎の長男	山崎滝山8
1, 29	実沢 利幸	年男の2男	徳江字拾俵橋26
1, 29	遠藤 喜勝	政勝の長男	藤田中沢二2の6
2, 1	渡辺 和良	末一の2男	泉田堤尻3
2, 2	吉田 篤史	貞男の長男	藤田町裏9の3
2, 2	齋藤 浩一	重夫の長男	徳江館ヶ崎19
2, 3	根本 涉	彰の長男	藤田町裏8
2, 5	佐藤 正子	次男の長女	藤田町裏4
2, 8	佐竹 英子	弘治の長女	藤田町裏4
2, 8	村上 正樹	正勝の長男	徳江佐野台32
2, 10	佐藤 文子	賢一の3女	小坂小坂14
2, 11	遠藤美紀子	武の長女	小坂塚田11
2, 12	菊地 真弓	善昭の2女	塚野目金屋28
2, 13	吉川 均	隆の3男	大木戸細藤29
2, 16	岩城 香	重夫の長女	藤田町70
2, 17	佐藤 敏信	福太郎の長男	西大枝根岸13
2, 19	齋藤 光弘	昌義の長男	石母田上の山10
2, 22	星野 康弘	弘の長男	光明寺滝の下19
2, 25	穴戸 憲一	勝憲の長男	藤田町16
2, 25	鈴木 尚子	英明の長女	藤田中沢一、13の1

こんどはかま跡発掘

町史編纂室では、今月十五日から二十一日まで一週間の予定で、大字大木戸字中野窪、通称「新堤」の北岸にある昔のかま跡を発掘調査する。これは平安時代初期から中期にかけて須恵(すえ)器を焼いたとみられるかまどで、「赤坂かま跡群」の一つである。担当として宮城県多賀

